

## ◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

### 1. 富山市民俗民芸村【富山・安養坊】

([https://www.city.toyama.toyama.jp/etc/minzokumingei/tenji\\_tougei040617.html](https://www.city.toyama.toyama.jp/etc/minzokumingei/tenji_tougei040617.html))

6月17日(金)～11月15日(火)

企画展： 庶民が手にした江戸・明治期のやきもの

江戸時代、釉薬を施した陶器や硬質の磁器が焼かれるようになると、都市部をはじめ農村部に至るまで陶磁器の需要は高まりました。また、江戸後期には殖産政策によって藩が保護する窯が全国に開かれ、あらゆる暮らしの器がやきもので生産されました。しかし、明治時代に入ると小規模な地方窯は藩の後ろ盾をなくして衰退し、昭和の太平洋戦争頃にはその多くが廃止されました。ガラスなどの新素材の普及や生活様式の変化に合わせて生産されなくなった器種も少なくありません。当館では江戸・明治期に焼かれて庶民の暮らしを彩った各地の陶磁器を数多く所蔵しています。中には民藝運動の創始者、柳宗悦によって美を見出された器と同種のものも含まれます。本展ではこれらの貴重なやきものの、温かみのある用に即したシンプルな美しさを紹介します。



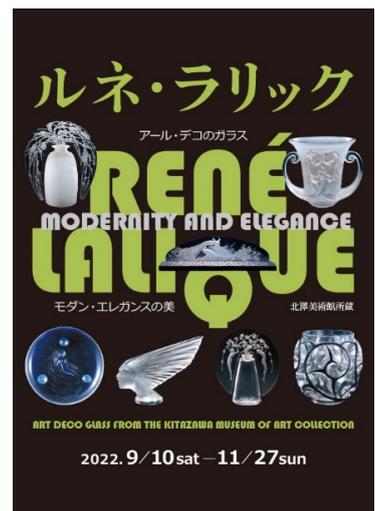
### 2. 兵庫陶芸美術館【兵庫・丹波篠山】(<https://www.mcart.jp/exhibition/#jikai>)

9月10日(土)～11月27日(日)

特別展： 北澤美術館所蔵

ルネ・ラリック アール・デコのガラス モダン・エレガンスの美

19世紀末から20世紀前半にかけて、フランス装飾芸術の世界で活躍したルネ・ラリック(1860～1945)。本展では、世界屈指のガラスコレクションを有する北澤美術館所蔵品より、アール・デコの時代を代表するラリックのガラス作品を選び、芸術性と実用性を兼ね備えたその美しさの魅力に迫ります。



### 3. 滋賀県立陶芸の森 陶芸館【滋賀・甲賀】([https://www.sccp.jp/docs/sccp\\_schedule.pdf](https://www.sccp.jp/docs/sccp_schedule.pdf))

9月17日(土)～12月18日(日)

企画展： 静中動：韓国のスピリットをたどるー開かれた陶のアート

激変する歴史の中で多文化と交流しながら、独創的な世界観を生み出している韓国アート界は、静の中に潜められる動のエネルギー、「静中の動」の精神が垣間見えます。本展では、静中動の視点から伝統を踏まえ、様々な表現・理論へと展開された韓国アート、主に陶を素材にした作品を紹介し、その根底にある精神性と魅力について迫ります。

